

平成 24 年度 教員活動自己点検・評価報告書 記載内容のまとめ

※各項目ともに「C 積極的でなかった」の自己評価に対する理由を記載

※同様な内容は同一記載として一括

1. 教育活動

(1) 授業活動

Cの自己評価なし。

(2) 実習指導活動

※実習を持たない教員は除く。

- ・実習後に行っている症例報告会の参加と学生に対する指導にとどまった。
- ・臨床実習のない2年生を担当していたため実習に向けた積極的な指導の必要がなかった。

(3) 教育改善活動

Cの自己評価なし。

(4) 研究指導活動

※卒業研究指導を行わない教員は除く。

Cの自己評価なし。

2. 研究活動

(1-1) 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

- ・学術論文として発表できていない。(同様記載2名)
- ・共著論文2編は発表できたが、筆頭論文は発表できていない。
- ・投稿は行ったが年度内に採択されず、十分な活動はできていなかった。
- ・作業療法士協会ニュースなどへの寄稿はあったが、査読審査がある学術論文をエントリーすることには至らなかった。
- ・教科書作成や依頼原稿作成は行えたものの、学術論文はまったく発表できていない。
- ・学術論文は発表できていないが、修士論文は他大学の紀要に掲載された。
- ・他大学で倫理委員会を通過し、実際に研究活動が開始できたのが遅かったため、実際の成果が出されていない。
- ・文部科学省の委託研究事業の調査報告とカリキュラム提案を行ったが、学術論文としては発表できていない。
- ・4年生の担任となり、実習・国家試験等の支援に時間を割いたため時間的余裕がなかった。しかし、論文ではないが、雑誌の講座連載の一部を担当した。
- ・現実的に研究にかける時間的余裕がない。授業準備や学生対応だけではなく、委員会やワーキンググループの業務も多く、広報関係の業務で時間を割くことが多い。メールによる連絡調整は自宅でのプライベートな時間でも行なっていた。職務専免日も全て使うことができないほどであった。
- ・国試対策をはじめとした、学内での教育活動に多くの時間が必要で、研究活動に時間が十分に割けなかった。
- ・障害理解を求める啓蒙活動を行っているが、本務の教育活動と合わせて、時間的な余裕がなかった。特に本年度は、初のPT・OTの国家試験対策に参画したので、慣れない、知らない

ということが多く、研究の時間がとれなかった。

- ・学内での講義と実習だけでも、体調維持がやっとの状態であった。また、体力・気力が年々薄くなってきた。
- ・日常業務のみに時間を費やしてしまい、研究時間の確保が困難であった。
- ・日常業務に追われ、研究活動はほとんど行えなかった。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕がなかった。

(1-2) 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

- ・研究発表活動そのものを行なうことができなかつたため。(同様記載多数)
- ・各職能団体に研究内容を普及することができた。しかし、学術論文での報告がなかったことから、研究発表活動の質を担保することはできなかつた。
- ・質の高い論文作成による研究発表を目標とはしたが、現状ではその具体的な活動には至っていない。
- ・脳卒中 ADL 予後予測チャートの作成に取り組んでいるが、その正確性が向上しない点と、チャートの使用方法が煩雑であるとの臨床家からの意見がある。ここには、セラピストの基礎医学的知識の低さが関連していることは否めないが、チャートの正確性向上には今後も取り組んでいかなければならない。
- ・国試対策をはじめとした、学内での教育活動に多くの時間が必要で、研究活動に時間が十分に割けなかつた。
- ・研究成果は出ているため、まとめる必要性を感じているが、その時間的な余裕がない状況にある。
- ・日常業務のみに時間を費やしてしまい、時間の確保が困難であった。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕がなかった
- ・2年生・3年生に対する教育支援体制の構築と総合臨床実習の実施等、教育に割く時間が多く、研究活動を行っていく時間と体制を作ることができなかつた。

(2) 学会等における研究発表活動

- ・学術講演、学会発表ともに行えていない。(同様記載多数)
- ・共同研究者としての発表は数件あったが、筆頭演者としての発表活動は行えなかつた。(同様記載3名)
- ・博士論文に時間を費やしたので、学会発表はできなかつた。
- ・今年度は論文での報告という形に終始した。現在蓄積されている症例数はまだまだ不足している。今後もさらに症例研究を進め、ある程度まとまった形で物事が進言できるようになった段階で学術講演などを行っていきたいと考えている。
- ・国試対策をはじめとした、学内での教育活動に多くの時間が必要で、研究活動に時間が十分に割けなかつた。
- ・業務煩雑にて学会に出張できる状況ではない。
- ・日常業務のみに時間を費やしてしまい、研究時間の確保が困難であった。
- ・臨床実習帯同や講義・演習などが学会発表と多く重なったため、研究発表をすることが叶わなかつた。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕がなかった

(3-1) 競争的資金の申請・獲得状況

- ・申請できていない。(同様記載多数)
- ・申請の準備に留まった。
- ・競争的資金の共同研究者ではあるが、競争的資金の獲得はしていない。(同様記載4名)
- ・助成を受けた研究のまとめおよび成果報告が計画通りに進んでいなかったため、継続的な申請を行えなかった。
- ・現在の関心事は、理学療法を行う上で必須の患者の神経症候を徹底的に分析し、理学療法の結果を偶然から必然へ変えていくことである。よって、現在そのような視点で症例研究を中心に症候の徹底分析を行っている。これを行う際に主に必要となるものは文献であり、資金の獲得は現在のところ必要とはならない。今後、これらの原因分析を基に、さらに発展させた研究を計画していく段階で資金獲得も検討したい。
- ・博士論文作成に忙しかった。
- ・国家試験対策などの業務に専念すべく、申請は行わなかった。
- ・時間的余裕のない状況から、研究活動を行えておらず、資金獲得申請を行っていない。
- ・競争的資金申請は、開学1、2年目は行っていたが、大学院申請の方に注力され、活発に行えていない。
- ・業務に追われてできなかった。
- ・日常業務のみに時間を費やしてしまい、時間の確保が困難であったため。
- ・直接的な教育業務に追われ、申請して獲得する意欲が沸かなかった。
- ・担任としての学生指導、講義準備、国試対策準備、委員会活動などにより時間的な余裕が無い。

3. 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

- ・国、府、市町村等の委員会への参画活動はできなかった。(同様記載多数)
- ・現在行っている研究が患者1例1例に対する症例研究であることから、全体を通して何かを進言するという段階にまで来ていない。今後さらに研究を進め、ある程度の形にまとまった段階で物事を発信できるよう心がけていきたい。
- ・行政課題に興味がない。そのような時間もない。エビデンスが乏しいとされるリハビリテーション関係職種にそのようなことに時間を費やす余裕はない。
- ・特に国・府・市町村等の委員会へ参画していないため、特に行政課題に対応した研究・提言を行っていない。今後、参画依頼があれば引き受けたい。

(2) 地域に密着した学習支援活動

- ・地域に密着した学習支援活動は特に行わなかった。(同様記載7名)
- ・参画する機会、依頼が無かったため活動していない。(同様記載3名)
- ・高校での進学ガイダンス以外に、社会人向けの公開講座、高大連携講座を実施していない。(同様記載3名)
- ・自発的に行動しなかったため。
- ・業務に追われてできなかった。

(3) 職能団体参画等の活動

- ・ 職能団体の行事や活動において、貢献、協力できなかった。(同様記載4名)
- ・ 自発的に行動しなかった(理学療法士協会は休会中)。
- ・ 新人教育の一環として実施されている症例発表会にあたり、卒業生に対する支援など間接的に寄与するに留まった。
- ・ 職能団体活動に疑問を持っているため、積極的に関わろうとは思わない。
- ・ 時間的な余裕がなかった。(同様記載2名)

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

Cの自己評価なし。